

香美町ならではの 教育の挑戦

●問い合わせ先 町教育委員会こども教育課

未来の「知識基盤社会」を切り開く力を育成するための挑戦！ 香美町小学校国語科・算数科学力向上事業

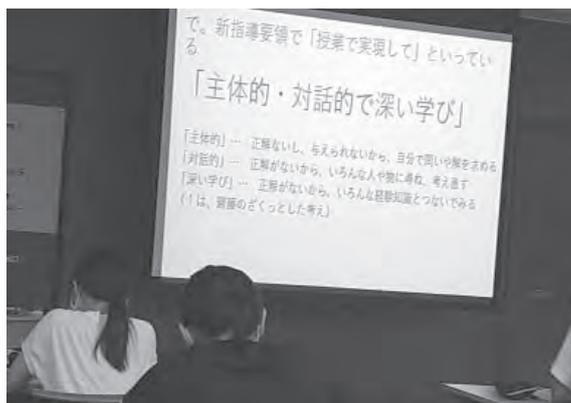
現在の日本は「知識基盤社会」を迎えています。幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断する力や、変化に対応する能力が求められています。未来を切り開く学力として求められるものは多種多様ですが、その基盤となるものは「読み・書き・計算」であり、小学校において要となる教科は、国語科と算数科です。

本町では、令和3年度から香美町小学校国語科・算数科学力向上事業を立ち上げ、教師が大学教授から実践的な指導を受けて授業の質を高めることにより、知識基盤社会を生き抜く児童の育成に取り組んでいます。

新しい学力観の共通理解

新学習指導要領では、知識や技術を中心にしてきた旧来の学力観から、学習過程や変化への対応力の育成などを重視した新しい学力観が求められるようになりました。児童・生徒の思考力や問題解決能力などをより重視するようになったとともに、教師の役割も、旧来の指導から支援・援助の姿勢へ転換を打ち出しています。

そこで、國學院大学の田村学教授に、新学習指導要領が求めている学力とは何であるかを講演していただき、新しい学力観に基づく「主体的、対話的で深い学び」の授業とはどのようなものであるか、教師間の共通理解を図った上で学力向上事業に取り組んでいます。



▲「主体的、対話的で深い学び」の授業とは？

国語科の取り組み：教師の授業力アップを目指す 算数科の取り組み：授業の実践指導を重視



▲模擬授業後のグループディスカッション

国語科では、神戸親和女子大学の齋藤隆彦教授と姫路大学の長谷浩也教授が、大学で行っている講義と同じ形式で講演を行い、具体的な教材を用いて授業実践力の向上を図りました。また、教師が子ども役になり「大造じいさんとガン」の模擬授業を行い、物語文における「見方・考え方を働かせる読みの指導」について学びました。

算数科では「つまずきポイント算数」を活用し、教師が子ども役になり、新しい学力観を踏まえた「5年生小数のかけ算」の模擬授業を行いました。また、東京理科大学が開催している「算数/数学・授業の達人賞」を受賞した畿央大学の椎名美穂子教授に講演を行っていただき、授業力向上に役立つ実践指導について学びました。

【日々の授業を通じて子どもたちへ還元】

上記の講演や模擬授業などの研究会を通じ、教師の国語科・算数科の授業力を向上させ、子どもたちへの授業を新しい学力観を踏まえた「主体的、対話的で深い学び」を実現するものと改善しています。